

教員名	小谷 眞男 (KOTANI Masao)
所 属	生活科学部人間生活学科生活社会科学講座
学 位	学術修士 (1989 東京大学)
職 名	助教授
URL/E-mail	http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/C426DF74-D177-4759-B171-5B1F3540EEB1.html /m-kotani@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

イタリア / 法文化 / 名誉/恥 / 社会福祉 / 法と文学

◆主要業績

総数 (5) 件

- ・「もうひとつの福祉レジーム? ---イタリアの研究動向から---」(『福祉社会学研究』no.2、2005年5月、pp.91-105)
- ・「西欧近代における<名誉コード>と<刑罰コード>---家族と国家の比較法社会史へ---」(比較家族史学会監修、田中真砂子・白石玲子・三成美保編『国民国家と家族・個人』早稲田大学出版部、2005年9月、pp.175-199)
- ・『世界の社会福祉年鑑 2005』(編集代表:仲村優一ほか、編集委員:西澤秀夫ほか、旬報社、2005年12月;「イタリア」[pp.51-98]の一部を分担執筆、全体編集委員)

◆研究内容

- 1) 名誉と恥をめぐるイタリア法文化についての比較史的研究のまとめに入った。具体的には、伊仏独西の4カ国比較刑事法史分析、次いで1889年のイタリア統一刑法典編纂過程の検討をおこない、法曹集団の全国的形成の問題に取り組んだ。
- 2) 現代イタリアの社会福祉についての従来からの共同研究を進めた。具体的には比較レジーム論の観点から研究動向のサーヴェイをおこない、また2004年におけるイタリアの社会福祉の動向を共同で調査した。
- 3) 法と文学についての試行的研究を開始した。2005年度は、とくに Shakespeare の諸作品にみる sense of justice の分析を試みた。

◆教育内容

生活法学演習 I・II、生活法学総論・各論、生活関連法、法学 II (法学入門)、生活法社会論、等の諸科目において、生活世界と法システムの関係および法文化をめぐる諸問題について、さまざまな角度から、法社会的に検討した。

◆Research Pursuits

- 1) Research on the Italian legal culture, especially from the historical viewpoint
- 2) Research on the social welfare of the contemporary Italy
- 3) Explore the themes of "law and literature"

◆Educational Pursuits

Lectures and seminars on the sociology of law and the comparative legal cultures.

◆共同研究例

- ・民間企業との共同研究の実績はない。

◆将来の研究計画・研究の展望

- 1) イタリア法文化研究を比較法文化論一般に展開させていく構想を温めている。
- 2) イタリア社会福祉についての従来の共同研究の蓄積を、単行書という形で公表する計画を立てている。
- 3) 法と文学についての研究を活用して一風変わった法学入門書を執筆したいと考えている。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・比較法文化論
- ・法と文学
- ・社会福祉に関する国際比較研究

◆受験生等へのメッセージ

law school 以外で学ぶ法学は、"sense of justice" の練習問題です。自分なりの sense of justice を磨き上げていくことが、市民的教養の不可欠の一環をなすと信じて、教育・研究活動をおこなっています。

イタリアの法文化 — 名誉と恥・聖母マリア・人類学

※【 】内は担当科目名を示す

